

防犯 最前線

第15話

藤島防犯パトロール隊



留守宅が増えるお盆休み中に警戒を強めるメンバー＝藤島公会堂前で



汗をにじませ街頭監視する

団結力で見守る

夏真っ盛りの8月10日朝、県道岩作諸輪線の藤島交差点に、ベスト姿のメンバーらが集まった。この日の活動は「交通事故死ゼロの日」の街頭監視。交通量が多い通勤、通学時間に合わせて、長年立ち続けている。

メンバーによると、この場所に押しボタン信号機が設置されて、50年近くになる。南北に走る県道を挟んで、東側に藤島台団地があり、西側では新しい市道の整備が進む。「昔から事故が多い場所。子どもたちも歩くので、スピードを落とす」と訴える。

藤島防犯パトロール隊は、児童の安全と地域の治安対策を目的に、2009年4月に設立した。児童の見守りや街頭監視のほか、青パト活動で詐欺や侵入盗への注意を呼び掛けるなど、防犯と交通安全の一体的な活動に取り組んでいる。現在87人が登録し、55人が活動に参加。設立当時から今年3月まで隊長を務めた遠藤勝彦さん(77)は「暑くても雨が降っても休みません。おかげで大きな犯罪もなくやって来ている」と話す。

藤島町は東西に広がり、住民約595世帯が暮らす。東名高速道路近くの機織池や森の自然にも恵まれ、メンバーの多くは草刈りなど保全活動にも参加している。区・自治会加入率は8割を超え、住民の団結心は強い。

遠藤さんから隊長のバトンを託された福田隆志さん(68)は、昨年度藤島区長を経験した。「皆さんの安全安心に対する関心は高い」とする一方、「カバーできない部分もあるので、今の課題は防犯カメラの設置と交通の改善をいかに調整するかです」と打ち明ける。

会では毎年子ども会が開くクリスマス会で、新入生向けに防犯ベルを贈っている。地区には人通りが少ない竹やぶ近くの通学路もあり、大屋あや子さん(78)、黒川鈴代さん(84)は、「1年生や1人で帰る子どもが一番気になり、散歩がてら続けています」と児童を見守る。福田さんらは心から地元を愛している。「防犯はすぐに効果が出るものじゃないけど、がんばりますよ。藤島をもっと住みやすい町にしたいから」(広)

堂々の準優勝 県消防操法大会

碧南市で8月5日に開かれた「第62回愛知県消防操法大会」小型ポンプ操法の部で、日進市代表の折戸が堂々の準優勝を果たしました＝写真。「昨年(6位)の雪辱」を目標に掲げて練習に明け暮れ、見事な

底力を見せました。水嶋義弘団長は「暑さに負けずよくリベンジしてくれた」と称賛。消防や地元、企業などの応援にも感謝を込め、「今後も一層地元に着実に貢献したい」と笑顔で語りました。

